

## 年後半も欧州の政治リスクに注意（後編）

発表日：2015年5月27日（水）

～スペインの政治安定に暗雲～

第一生命経済研究所 経済調査部  
主席エコノミスト 田中 理  
03-5221-4527

◇ 24日のスペイン地方選では二大政党の凋落と新興政党の躍進が改めて確認された。年内に予定する総選挙でも4政党が議席を分け合うことが予想される。政権発足には新興政党の協力が不可欠な情勢。二大政党が政権交代を繰り返し改革を続けてきたスペインの政治安定は曲がり角を迎えている。

年後半（11月か12月）に総選挙を控えるスペインでは、これまで交替して国政運営を担ってきた現与党の「国民党（PP）」と前与党の「社会労働党（PSOE）」の二大政党が大きく支持を失うなか、緊縮見直しを訴える新興政党の「ポデモス（Podemos）」が急速に支持を伸ばしており、政局への不透明感が増している。ただ、スペイン国民の間には緊縮見直しを求めて孤立化するギリシャの新政権の二の舞になることへの不安感もあり（ポデモスはギリシャの新政権を率いる急進左派連合に近いとされる）、このところの世論調査でポデモスへの支持がやや失速気味だった（図）。ポデモスが発足当初の極端な政策から現実路線にやや軌道修正していることも加わり、金融市場でスペイン政局が大きくクローズアップされることはなかった。さらに、ポデモスに代わって最近支持を伸ばしているのが、より穏健な政策を志向するリベラル系の新興政党「市民（CsまたはCiudadanos）」だ。総選挙後は単独での過半数獲得が難しい二大政党のいずれかに市民が協力する形でスペインの政治安定が保たれるとの期待感も広がっていた。

だが、総選挙の前哨戦と位置づけられる24日の地方議会選挙（17州のうち13州の議会選挙と約8,000の市町村議会選挙）では、二大政党の凋落と新興政党の躍進については規定路線であったものの、ポデモスが予想以上に善戦し、市民が世論調査ほどは票を伸ばさなかった。改選前に11の州議会でも最大会派を形成し、うち7つの州で単独過半数を確保していた与党・国民党は、全ての州で単独過半数に届かなかった模様で、多くの州で社会労働党とポデモスによる左派連合に最大会派を明け渡す可能性がある。国民党と社会労働党がともに前回選挙から大幅に議席を失い、さらにマドリッドとバルセロナの二大都市の市議選ではポデモスが最大会派を形成する可能性が高く、改めて二大政党体制の終焉と新興政党の勢いを印象づけ、総選挙後のスペイン政局が不安定化する可能性が意識される結果となった。スペインの下院選挙は比例代表制を採るが、マドリッドとバルセロナに割り当てられた議席数が多く、都市部で強い新興政党に有利に働く可能性がある。ギリシャ情勢を巡る不透明感もあり、スペインの政局不安が市場心理の重石となっている。

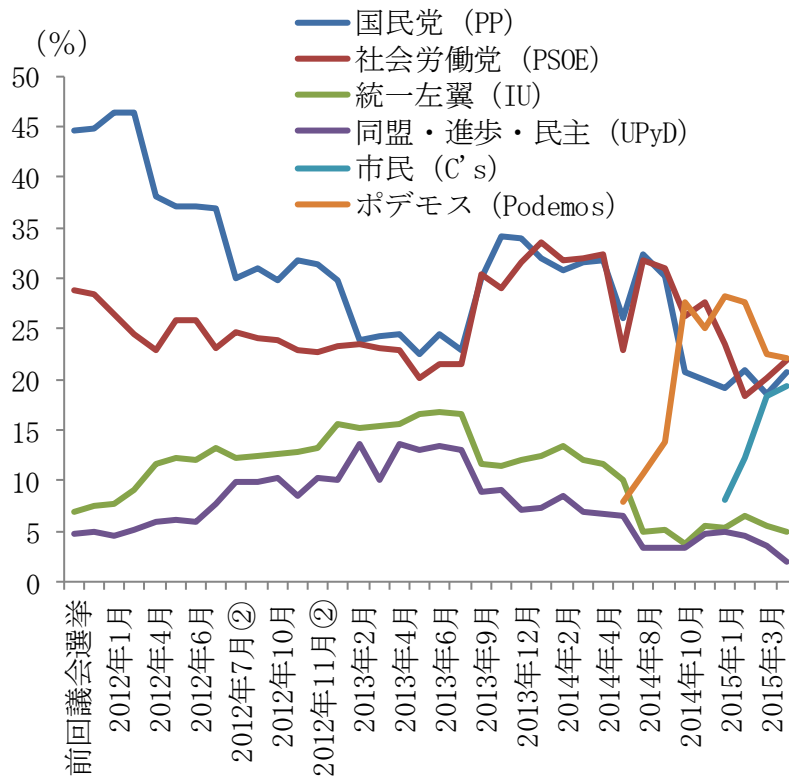
地方選の結果がスペインの経済・財政に与える影響は限定的との見方もあるが、今回の選挙戦でポデモスは貧困層対策の充実などを訴えてきた。社会労働党とポデモスが最大会派を形成する州では、歳出拡大圧力が高まる恐れがある。また、地方選の結果に危機感を覚えた与党・国民党も、総選挙に向けて一段の景気浮揚・雇用創出につながる政策を志向する可能性があり、緊縮路線が後退することも考えられよう。二大政党の批判票を得票源とする新興政党は、総選挙への影響を懸念して、州議会運営で二大政党と距離

を置く可能性がある。3月に行われたアンダルシア州の議会選挙でも、最大議席を獲得した社会労働党が単独過半数に届かなかったが、他党との連立や閣外協力の協議が難航し、州議会運営が定まっていない。

ポデモスは今回の地方選で各地の地方政党と統一会派を組んで選挙戦を展開した。ポデモスが予想以上の票を獲得した背景には、汚職事件が後を絶たない二大政党への国民の根強い不信感と変革への期待感に加えて、地方政党の地盤を引き継いだことも奏功した可能性がある。他方、市民は元々カタルーニャの地方政党で、国政への参戦を表明してからまだ間もない。スペイン全土で地域に根を下ろした選挙活動を行うのは難しく、地方選では支持が集まりにくかったことも考えられる。また、危機感を強めた二大政党による巻き返しも予想される。今回の地方選の結果がそのまま冬の総選挙の結果に反映されるかは不透明だ。

世論調査通りの結果となれば、二大政党と新興2政党の計4党が多くの議席を分け合う形となる。どの政党も単独での過半数を獲得することができず、ポデモスによる政権奪取がない場合にも、総選挙後にスペインの政治安定が揺らぐことは避けられない。長年対立してきた二大政党による大連立は前例がなく、二大政党の何れかが新興政党の協力を得て政権を発足した場合にも、政権基盤の弱さが嫌気されるほか、政策運営に対する不透明感が高まる恐れがある。債務不安国の一角を占めたスペイン経済が近年目覚ましい復活を果たしてきた背景には、労働市場改革を通じて労働コストを抑制し、企業の競争力を回復させるとともに、新規雇用を産み出してきたことがある。改革継続への期待感が後退すれば、経済の先行きにも暗雲が立ち込める。スペインは第2のギリシャではないが、政治安定の時代は終焉を迎えることになる。

(図) スペインの主要政党別の支持率推移



出所：Metroscopia資料より第一生命経済研究所が作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。